

一白 予科練生らが開墾 新保 碑銘「開拓記念碑」

石川県加賀市の開拓地

石川県には、戦後の開拓事業で約1500戸が入植し、79の開拓農協が設立され、開墾と営農が行われた。

県西部の加賀市には、六つの開拓農協があった。航空自衛隊小松基地（前身は、戦時中に建設された「小松海軍航空基地」）が小松市にある。西隣が加賀市で、同基地に近い一白町^{いっぱくまち}～新保町^{しんぼまち}の丘陵地は、パイロットを養成する「小松海軍航空隊」の広大な軍用地だった。その跡地を中心に、緊急開拓事業が実施された。

同地区には、二つの開拓地がある。

一白開拓地

入植者は、同航空隊の海軍飛行予科練習生（予科練生）が主体だった。終戦後、そのまま住み着き、開墾を始めた。1945（昭和20）～65年、23戸が入植。当初は、バレイショなどの畑作だった。60年、近郊の農家と共同で土地改良事業を実施し、翌年、水田の造成・かんがい用水施設の整備を終えた。

新保開拓地

45～49年、20戸が入植。土地改良事業で水田が造成された。水田地帯に、新保開拓農協（63年解散）が建立した記念碑がある＝写真。碑銘は「開拓記念碑」で、碑文には「防風保安林ノ開拓に着手シ初メテ此地ニ水稻ノ植附ニ成功セリ」と記している。

新保開拓記念碑

①位置 石川県加賀市新保町（36.375396, 136.368470）

②設置者 新保開拓農業協同組合

③設置日 昭和33年（碑文風化のため推定）

④碑文表 開拓記念碑

昭和〇十年十一月新保〇〇防風保安林の開拓に着手し〇和〇九年六月初〇て此の地に水稻の植付に成功せり 開拓面積田畑五十〇〇〇〇和〇三年〇〇〇〇〇成式を行い此の碑を建つ
新保開拓農業協同組合

⑤碑文裏 なし

⑥記念碑の現在の立地状況

田園地帯であるが、面積の大半がゴルフ場が開発されている。

